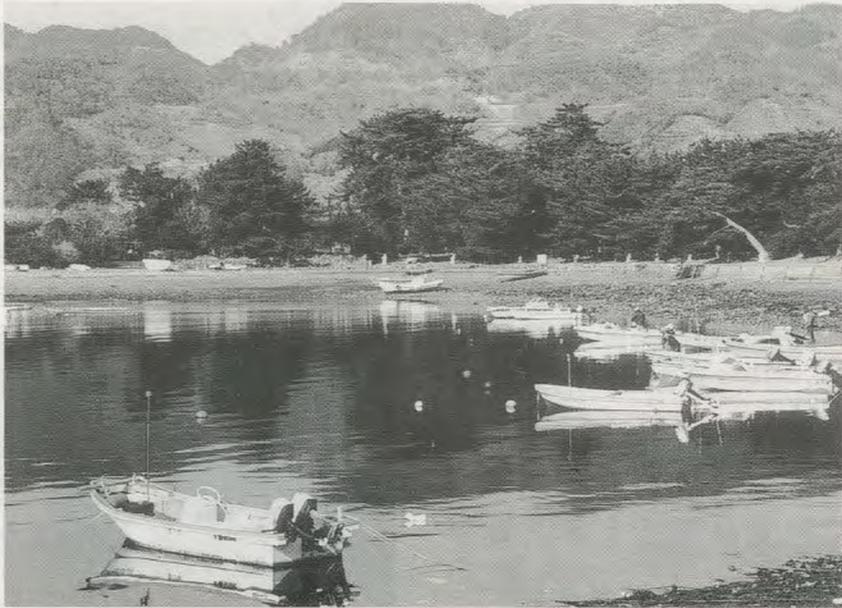


# 光市医師会報

平成元年3月号

No. 197



水ぬるむ

光市医師会

## 医師会月間行事

### 平成元年2月度理事会

2月7日(火) 午後7時30分～

光市医師会館

出席者：竹中会長、福本副会長、丸岩・  
富恵・近藤・藤原・吉村各理事

#### 議題(報告・協議事項)

- 1) 周南医療圏における地域医療懇談会の報告 (竹中会長)
- 2) ファックス使用説明会の件(竹中会長)  
ファックス操作の不明な点に関する全体の説明会はしないが個別にはする。
- 3) 学校医研修会の件 (福本副会長)  
講師の謝礼、司会進行係・スライド係の人選、研修会終了後講師との懇談会等に関する件
- 4) 光市長との懇談会の件  
医師会から「休日診療患者調査」(光市立病院を除く)を提出
- 5) その他
  - イ) 予防接種等出務の件
  - ロ) 光市医師会基金、福祉等規則の検討の件
  - ハ) 2月24日休日の件  
当日の休日診療当直一竹中・丸岩先生
  - ニ) 河村先生の3月12日の休日診療当直変更の件
  - ホ) 河村先生の三井小学校学校医の変更の件
  - ヘ) 光市医師会ゴルフコンペの件
  - ト) 光市人間ドックの件

チ) 3月23日食事付き月例会の件

### 平成元年度地域医療業務に関する協議会

2月13日(月) 午後6時30分～

金久別館(室積)

出席者

(光市)水木市長、堀川教育長、  
村谷消防長、小田福祉事務所所  
長、山本市民部長、川崎保険セ  
ンター所長・松本予防衛生係長  
(光市医師会)竹中会長、福本副会長、  
富恵・丸岩・赤崎・梅田・近藤・  
藤原・吉村各理事



#### 協議事項

- 1) 市長あいさつ
- 2) 医師会長あいさつ
- 3) 議事
  - イ) 平成元年度医師出務報酬について  
川崎保険センター所長説明
  - ロ) 成人病検診等実施状況について  
川崎保険センター所長説明
  - ハ) 救急活動実施状況について  
村谷消防長説明
  - ニ) 休日診療実施状況について  
福本副会長説明

ホ) その他

懇親会……協議会終了後

### 光市学校医研修会・光市学校保健研修会

2月23日(木) 午後1時30分～4時

新日鐵労働福祉会館

司会：福本副会長

開会挨拶：竹中会長

#### 〔講演〕

#### 1) 「心の発達ということ」

精神・神経学的立場より

講師 山口市メンタルクリニック

藤山哲男先生

#### 2) 「病む子、籠る子、暴れる子」

心身医学的立場より

講師 佐賀大学教育学部教授

山口 剛先生

#### 3) 「質疑応答」(シンポジウム形式)



藤山先生



山口先生



〔対象〕 学校医、歯科医師会、薬剤師会  
 学校長、養護教諭、保健主任、  
 担任教師、PTA  
 他都市の校医、教育関係者

〔主催〕 光市医師会・光市学校保健会

〔後援〕 光市教育委員会・山口県医師会

### 周南医療圏における救急医療について

2月23日(木) 午後7時～

徳山医師会病院会議室

出席者

(光市医師会) 竹中会長、丸岩理事、  
 板垣光市立病院長

#### 議 題

- 1) 毎夜間の2次救急医療について
- 2) 外科、内科、小児科、産婦人科、整形  
外科以外の救急医療について
- 3) その他

### 研修会 (学術講演)

2月21日(火) 午後7時～

光市保健センター

演 題 「乳ガン検診について」

講 師 山口県労災病院 田村陽一先生

### 平成元年2月度月例会

2月21日(火) 研修会終了後～

光市保健センター

#### 議 題 (報告・協議事項)

- 1) 医師国保組合会議の報告 (竹中会長)
- 2) 光市との協議会の件 (福本副会長)
- 3) 光市三師会総会の件
- 4) 平成元年度休日診療割当てについて  
(丸岩理事)
- 5) その他
  - イ) 三種混合ワクチン個別接種の件
  - ロ) 子宮ガン・乳ガン検診の件
  - ハ) 後天性免疫不全症候群の予防に関する法律に関する件

- ニ) 大喪の礼の日の休日加算の取扱いについて
- ホ) 第1号会員の昭和63年分医業所得調査について
- ハ) 平成元年度税制改正大綱について
- ト) 新点数早見表(甲・乙)および新薬価基準の発刊について
- チ) 平成元年度応援医師等傷害保険の実施について
- リ) 「おむつ」に係る患者負担金の所得税法上の医療費用控除の取扱いについて
- 又) 産業医報酬基準の件

### 心電図研究会 (第8回)

下松・光市医師会合同  
 2月17日(金) 午後7時30分～  
 光市立病院 講義室

演 題 「心電図の読み方」  
 講 師 徳山中央病院 河野隆任先生  
 症例2 ①胸部激痛発 77才 女  
 ②左胸部痛 50才 男

### 県医師会・同関連行事出席

- 1) 山口県医師国保通常組合会議  
 山口県医師医師互助会支部長会議  
 竹中会長出席—2月16日 県医師会館
- 2) 結核審査会  
 福本福会長出席—2月16日 徳山保健所
- 3) 郡市医税制担当事務協議会  
 梅田理事出席—2月23日 県医師会館

### 研修会バス運行

第11回生涯研修セミナー出席のため  
 2月19日(日) 山口県教育会館  
 乗車 光市医師会11名・下松医師会6名

### 光市医師会ゴルフコンペ

2月26日(日) 午前8時48分スタート  
 光カントリー倶楽部

Name	Out	In	Gross	HD	Net	Order
横 山	45	46	91	18.4	72.6	3位
吉 村	50	50	100	26.4	73.6	4位
兼 清	43	42	85	13.6	71.4	優勝
前 田	48	47	95	19.6	75.4	6位
竹 中	46	49	95	19.6	75.4	5位
鳥 枝	60	60	120	31.6	88.4	8位
赤 崎	40	39	79	6.4	72.6	2位
富 恵	50	52	102	24.4	77.6	7位
( 特 別 参 加 )						
難 波	69	72	141			
森 岡	63	68	131			
末 広	49	51	100			

### 〔各賞受賞者〕

NP—兼清・赤崎 DC—赤崎(2個)  
 BG—赤崎 猛打賞—鳥枝 大波賞—竹中  
 ※HDはダブルペリア方式



休日診療患者調査 (S63.1~S63.12) (休日日数—69日)

H 1.2.7現在 光市医師会

科系	項目	小児科	内科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻科	その他 又は不明	合計	1日 平均	救急車 利用
内科系	患者数	660	1,072	56	0	1	3	4	1,796	26人	6回
	患者総数に対する%	36.7%	59.7%	3.1%		0.1%	0.2%	0.2%	100%		
	救急患者数(再掲)	40	46	5	0	0	0	0	91	1人	
	各科の患者数に対する%	6.1%	4.3%	8.9%					5.1%		
外科系	患者数	225	294	588	115	47	58	98	1,425	21人	18回
	患者総数に対する%	15.8%	20.6%	41.3%	8.1%	3.3%	4.1%	6.9%	100%		
	救急患者数(再掲)	22	16	127	1	1	14	4	185	3人	
	各科の患者数に対する%	9.8%	5.4%	21.6%	0.9%	2.1%	24.1%	4.1%	13.0%		
合計	患者数	885	1,366	644	115	48	61	102	3,221	47人	24回
	患者総数に対する%	27.5%	42.4%	20.0%	3.6%	1.5%	1.9%	3.2%	100%		
	救急患者数(再掲)	62	62	132	1	1	14	4	276	4人	
	各科の患者数に対する%	7.0%	4.5%	20.5%	0.9%	2.1%	23.0%	3.9%	8.6%		

成人病検診・結核・伝染病予防実施状況

(光市保健センター作成)

一般健康診査の実施状況

単位：人

区分 年度	受信者数	要医療	要観察	要指導
59	2,297	483	388	179
60	2,652	461	279	142
61	3,736	976	374	319
62	4,049	1,375	1,050	341
63	4,105	1,419	981	359

62年度から基本健康診査審査で実施

ガン検診実施状況

単位：人

区分 年度	胃ガン検診		子宮ガン検診	
	受診者	要精検査	受診者	要精検査
59	573	78	889	3
60	781	99	1,554	3
61	985	121	1,519	11
62	1,072	167	1,577	12
63	1,020	130	1,599	10

乳ガン検診受診者 945人

伝染病予防の実施状況

区分	対象者数(人)	接種者数(人)	接種率(%)	医師出務回数	備考
ジフテリア	2,200	1,949	90.7	60	
百日咳 破傷風	2,000	1,380	69.0	60	
破傷風	1,018	961	94.4	14	小学校 6年生のみ
ジフテリア	768	729	94.9	13	
生ワク	1,270	1,081	74.7	32	
	1,130	900	79.6	32	
風しん	512	384	75.0	9	中学校3年生 女子のみ
	485	377	77.7	6	
インフルエンザ	11,415	6,922	60.6	208	
	12,205	5,699	46.7	147	
日本脳炎	2,221	1,940	87.3	54	
	8,004	7,182	89.7	86	
麻しん	540	448	83.0		医療従事者 委託
	510	271	53.1		

(注 上欄62年度 下欄63年度)

※ 日本脳炎は61年度から3年間隔となり3歳・4歳が対象。

結核予防の実施状況

単位：人

区分 年度	学 校 関 係				一 般			
	ツ反応	B C G	間撮影	直撮影	ツ反応	B C G	間撮影	直撮影
59	2,717	602	660	5	720	625	2,371	24
60	2,003	664	486	4	579	462	2,449	15
61	1,952	698	442	5	488	416	2,365	73
62	2,138	569	1,155	0	564	449	2,205	14
63	1,588	433	493	3	588	497	2,095	34

# 河村俊男先生死去



平成元年3月2日午後  
1時に御逝去されました。  
謹んで哀悼の意を表します。

## 弔 辞

### 山口県医師会長 田村 武 男

本日故河村俊男先生の告別式に際し、謹んで御霊前に弔辞をささげます。悠久極まりない自然の営みに対し人の世はあまりにもはかなく、生者必滅会者定離、生あるものの死は現世のならいとは言いながら、今こうして永遠に帰らぬ旅に立たれた先生のお姿に接し、まことに惜別の情禁じがたく衷心より哀悼の意を表するものであります。

かえりみますれば、先生は、人の生命を預かる厳しくも尊い医師としての道にひたすら精進され、多年にわたり地域住民の医療に多大の貢献をされ、また医師会員としては、会の進展、会員の福祉向上のため絶えず積極的に協力してこられました。私も相携えて同じ道を歩んできた者として、先生のありし日をしのび数々の思い出が脳

裏に甦ってまいります。さらに、御遺族の方々の御心情に思いをいたすとき、御愁傷いばかりかとお慰めする言葉もありません。

ここに山口県医師会を代表して先生御生前の御功績・御厚情に感謝し、心より御冥福をお祈り申し上げ、さらに御遺族の皆様今後の御平安を切にお祈りして弔辞といたします。

平成元年3月4日



## 弔 辞

## 光市医師会長 竹 中 昭 二

春の訪れに背くかのごとく河村先生御逝去の報に接し、今日ここにお別れの言葉を申し上げねばならないことは、誠に痛恨の極みであります。生者必滅、会者定離は世の常とは申しますが、先生が病魔に倒られ手厚い看護の甲斐もなくお亡くなりになりましたことは悲しみの極みであり、御遺族の方々のお嘆きは如何ばかりかと御推察申し上げます。

先生は、昭和21年名古屋大学を御卒業後、御郷里の光市において国保室積診療所長・三井診療所長を経て、昭和37年に現地に御開業後も地域医療に御活躍され、地域の方々の御信望を一身に受けておられました。また、昭和41年より47年まで光市医師会副会長として医師会のまとめ役となり、会の発展に寄与された功績は大なるものであります。学校医としても、昭和39年より現在まで、三井小学校生徒達の健康管理に尽くされた功績は賞賛される所でありました。このような先生を病魔で失いましたことは、地域にとりまして、光市医師会といたしましても真に残念なことであります。

私事になりますが、河村先生との出会いは昭和29年に室積診療所に赴任した時からで、誠実で温厚なお人柄で、時には父のごとく指導して頂き、時には兄のごとく励まして頂き、夜の更けるまで盃を汲み交したことも数えきれません。家族ぐるみのおつき合いも30有余年に亘り、その間少しも変らぬ友情に結ばれていたことは、今御霊前

に立って感慨無量なるものがあります。

先生は生死をさ迷う大病に侵されながら生還されるのが常で、最近では、昭和60年末に手術を受けられた時も数ヶ月後には元気で復帰され、臨牀活動に従事しておられました。この度もまたそれを期待しておりましたが、このような結果を迎え世の無情を感じ、申し上げる言葉もございません。

愛惜の情は尽きる所を知りませんが、先生の4人の御子様がみな立派に成長され、医師として診療に研究に御活躍されておられることが、私の心の慰めであります。

河村先生、どうか安らかにお眠り下さい。私達光市医師会員は、先生が生前に尽くされた地域社会活動に思いをいたし、御遺志を受け継ぎ医の倫理をわきまえ、地域医療に、社会福祉に貢献することをお誓いいたします。私の心の中に刻まれた先生のお姿は、鮮かに永久に消えることはありません。

最後に、御遺族の皆様方に衷心よりお悔み申し上げ弔辞といたします。

平成元年3月4日



## お別れの言葉

河内山 清

初めて河村先生にお会いした時、ずっと昔から幼なじみの友達であったような気がいたしました。先生が、幼い頃そのままの、素朴で純粋な曇りない清らかな童心を持ちつづけておられたからだと思います。

先生はまわりに気を奪われること少なく、自分の思う道を着実に、自分のペースを守って歩まれる方です。「まあ、なるようにしかならんよ」一緒の車の中で、何度も先生のこの言葉を聞きました。足るということを知っていた人、世の中を諦観し得る人生観を持っておられたようです。当り前のことを当り前にするそのままの偉大さ、不断着のままの屈託のない心、何時もおだやかで優しく温かい雰囲気、先生は、「天性の性格的な品のよさ」とでもいうべきものを備えておられたようです。早くして医師会の役員となられ、当時としては異例の若い副会長が誕生したのも、先生のこのような御人柄が皆に親しまれ、敬愛の念を抱かせたからに違いありません。先生に手を握ってもらわれた患者の方々も、同じではなからうかと思えます。

明るい太陽の下での野球、ソフトボール、白球を追って投打に漑らつと躍動される先生の姿、威勢のいい応援の声をとばされる時、酔いの廻るにつれて手拍子を取りながら文部省推薦の唱歌を歌われる時、奥様・子供さん・お孫さんの話をされる時、倍万はいていツモで相手をガックリさせる時、先生の笑顔が最も美しく輝く時でした。先

生は、こよなく家族を愛されました。奥様の大おらかな暖かい愛情に包まれ支えられた先生の生涯は、誠に幸せであったことと思います。娘さんのお婿さんを含めた4人のお子様達、今では、各々、日進月歩の医学の道・診療の道に携わり立派なお仕事をされております。正に先生が残された遺産であり、宝であります。先生、これに勝る宝物はないのではないのでしょうか。

今から余生を楽しもうと思われていたことと思います。お孫さんの生長を楽しみにしておられたことと思います。先生のためにも、御家族のためにも、我々のためにも、もっともっと長生きしてほしい。しかし、その先生は、もう再び帰ることなく逝ってしまわれました。読経の声に導かれ阿弥陀仏の御許に行かれ、仏の御手に抱かれつつ我々のことを見守っていて下さるのでしょうか。しかし、もうこの目に先生の笑顔を見るすべもなく、耳におだやかな優しい声を聞くこともできません。これが、浮世の逃れられないさだめなのでしょう。とどめるに難しく、とどめ得べきすべもなかった先生のいのちに起死回生の望みをかけて、長い間、日ごと夜ごと治療に専念していただいたすべての先生方に対し、心より厚く御礼申し上げます。

先生の親しい友達である光市医師会員の皆様、および縁あって河村先生に接せられたすべての方々とともに、先生に最後のお別れの言葉を申し上げたいと思います。

長い間、数々のお役目・お仕事ご苦労様でした。長い間、私どもへのご厚意・ご友情ありがとうございました。

平成元年3月4日

## 河村俊男先生の思い出

福本寿雄

河村先生と知り合ったのは、昭和36年に私が光に来た時、彼が三井の国保診療所におられた時である。先生は、翌年すぐ開業された。私より6才年上であり、非常に温厚な方だがまじめで無口な人柄ゆえ、少々付き合いにくい感じがしていた。

しかし、当時徳山で講演会が毎月のようにあり、河内山清先生や丸岩先生達とよく聞きに行き、帰りに必ず1杯飲んで帰っていた。先生は酒がとても好きであり、1杯飲むと陽気になり、おもしろい歌がとび出し、話したすとめどがない位であった。それに、先生は平壤1中(ピョンヤン)卒であることが判り、私も平壤医専にいたので、よく平壤の街のことやキーサン学校のこと話はずんでいた。しかし時には少々飲みすぎて、翌日午前中休診のことも時々あったようだ。私の責任かと反省している。

もう1つ面白いことは、先生は我々の大好きな河豚<sup>ふぐ</sup>料理が全く嫌いであり、「あんな毒のあるものを食べる人の気が知れん」と言っていた。しかし1年もしない内に、河豚を断ろうとしたら「僕は河豚が大好きだぞ」と言われたのには、皆びっくりした。

昭和37年頃より、今は亡き高島・大野・上野・亀田諸先生方と軟式野球やソフトボールを年に3~4回やっていたが、先生はいつもピッチャーで、先発または上野君のリリーフで活躍していた。体は小柄であったが、なかなかのスポーツマンであった。

また、昭和41年頃よりゴルフ同好会が発



足し、毎月のように光CCCに出掛けた。河村先生は飛距離こそあまり出なかったが、先生の性格のようにいつも「真っ直ぐ」に飛ばし、3オン<sup>スリー</sup>4オン<sup>フォー</sup>で2パット<sup>ツー</sup>等といつも良い、いつも確実なスコアを残していた。OB等はあまりなかったように思う。

5年前、光市医師会史を編纂することとなり、大野先生が編纂委員長、河村先生が副委員長になられ、早速に資料収集にとりかかった。河村先生は、自分が副会長時代から議長までの細かいメモを私のところに届けてくれた。それを見てびっくりした。副会長・幹事・副議長・議長まで計20年間のメモを几帳面にとってあり、またそのメモが誰にでも読めるようなきれいな字、達筆さは光医師会第一人者と言えるだろう。

このように、先生はまじめで学者肌のようなタイプの人であり、決して自分から発言したり、大声を出すようなことはなかった。かといって変哲の面もなく、人を愛し、酒を愛し、ゴルフ・野球や麻雀を趣味とし、穏やかな楽しい人生を送られたように思う。

病魔にさえ侵されなければ、あと10~15年は優しい奥様や3人の息子さんやお孫さんに囲まれ、また我々医師会員ともども楽しい人生を送られているであろうことを考えると、誠に残念である。河村先生、どうぞ、あの世で上野・亀田両君達とゆっくり酒を酌み交して下さい。

## 悔む事

富 恵 哲

「思い出の記」をと会報委員より注文されたものの、亡くなられた河村先生について、強烈な思い出はない。勉強に名を借りた徳山での飲み会の時も、ただにこにこして、側で飲んでいただけのような気がする。大きな声で唄ったり、騒いだりということは、皆目なかったようである。黙って座り、周りの連中の意見を聞きながら頷いておられたような記憶しかない。側におられるだけで、皆に安らぎを与える雰囲気を持っておられたのかも知れない。まあ、酒の席は欠かさずに来られていたのだから、飲む方は嫌いでではなかったのだろう。

先生が亡くなられた日、宅を訪れたところ、応接間の本棚に「死の医学への序章」柳田邦男の本が並んでいた。手に取ってパラパラと頁をめくりながら、ふと、これを読まれた先生の気持を考えると、頭を撲られたような気がした。前立腺癌の骨転移で苦しんだ精神科医の死までの苦悩を書いた本である。制癌剤の副作用による苦痛、激しい倦怠感。何かをせねばならないという焦り。耐えられず病院を無断で退院していく患者としての悩み。友人に相談をしながら、最後に残された自分の生活に悔いを残さぬよう努力して亡くなっていく態を、作家の目で追った本である。

先生は、どのような気持でこの本を読まれたのであろうか？。初7日の仏前で、奥様が「主人は知っていたのでしょうか？」と前置きをしながら、食道離断術を行った

後「『肝硬変の3分の1は癌になるのだから』とポツリと言ったのが気にかかります。でも、私は、癌の宣告だけはしてほしくなかった」と、涙ぐんで言われた。患家の気持を代弁する言葉かも知れない。

最後、御見舞にと病院へ顔を出した時、ゲーゲーと吐血の最只中で、口元から枕元まで血だらけ。血塊が散らばったベットの先生を見られず、言葉もかけずに、恢復を願って退散した。数日後、再び見舞った時は、黄胆で黄色な顔をして意識も定かでなく、その翌日、亡くなられた。

おそらく、4年前、肝硬変として食道静脈瘤の手術をした時から、この日の来ることを知っておられたに違いない。

Quality of Life、癌と知りつつ、より良い生活を、より実のある人生を送ろうとされた先生へ何の手助けもできず、通り一遍の医者としての智恵しか巡らさなかったことが、残念で仕方がない。友人として、医者として、先生の生活をより充実したものにするために手を貸さなかったことが、悔まれてならない。

先生、ごめんなさい。 合掌。



別 離

思 い 出

＝ 編集後記 ＝



S47年7月 岩国鵜飼にて

富 竹 亀 福 河 伊 渡 各  
 恵 中 田 本 村 藤 辺 先  
 生



S47年11月19日

福岡国際CC到着

竹 福 河 河 各  
 中 本 村 内 先  
 山 生  
(調)



S 50 年 10 月 10 日

光市医師会バレーボール大会

河 亀 河 各  
 村 田 内 先  
 山 生  
(調)

気候が冬から春へと移り変わる彼岸がや  
 ってまいりました。彼岸は梵語で「向こう  
 岸に渡る」という意味だといわれ、虚飾と  
 煩悩に満ちた「此岸」から終局、さとのり  
 世界の「向こう岸」に至る願いがこめられ  
 ているのだそうです。

今月号は「河の向こう岸」にお送りした  
 河村先生の悲しい特集になってしまいま  
 した。葬儀当日の朝は夜来の雨が河村先生  
 の心情を想いやってか、寂しげに降って  
 おりました。

水木光市長さんの弔辞の中に「何よりも  
 すばらしいと私が感じたのは、先生の  
 このたびのご入院を知った三井小学校の子  
 どもたちが、お見舞の作文やご回復をお祈  
 りした千羽鶴を先生にお届けしたというこ  
 とでございます」というくだりがありまし  
 たが、先生のお人柄がにじみ出ている言葉  
 だと思います。子供達に慕われるという事  
 は確かにすばらしい事です。先生の御冥福  
 をお祈り申し上げます。

なお河村先生のなつかしい写真は、福本  
 先生よりお借りしたものです。

(吉村)

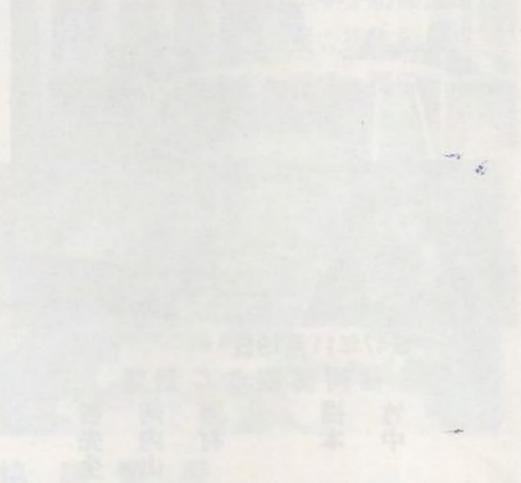


一月間発行会報

光市医師会報は、光市医師会が発行する会報です。毎月発行され、光市医師会員の皆様へお届けいたします。本会報では、光市医師会の活動や、医療に関する情報、健康に関する情報などを掲載しております。また、光市医師会の活動や、医療に関する情報、健康に関する情報などを掲載しております。また、光市医師会の活動や、医療に関する情報、健康に関する情報などを掲載しております。



光市医師会 月間発行会報



光市医師会 月間発行会報



発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	竹中昭二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社